

CASBEE®-ウェルネスオフィス | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-ウェルネスオフィス2020年版 使用評価ソフト: CASBEE-WO_2020(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 評価パターン	
建物名称	技術センターSOU	階数	地上3F
建設地	茨城県つくば市	構造	RC造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	98人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,500時間/年(想定値)
建物用途	その他(研究所)	評価の段階	設計段階(実施設計・施工)評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2021年6月15日
敷地面積	5,718 m ²	作成者	植木勝重
建築面積	1,293 m ²	確認日	
延床面積	3,110 m ²	確認者	

1-3 外観



2-1 総合評価

Rank: S **84.4 / 100**



S ランク: ★★★★★ > 75
 A ランク: ★★★★☆ ≧ 65
 B+ランク: ★★★☆☆ ≧ 50
 B-ランク: ★★☆☆☆ ≧ 40
 C ランク: ★☆☆☆☆ < 40

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

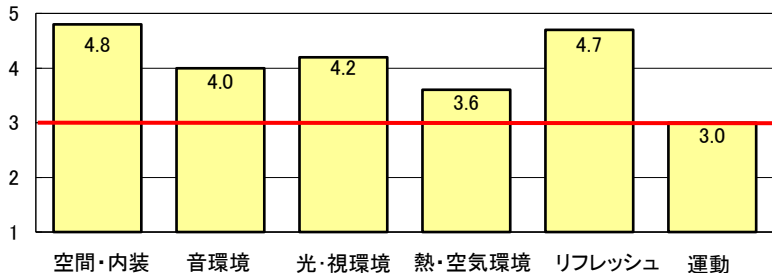


2-3 中項目の評価(バーチャート)

基本性能

Qw1 健康性・快適性

Score: 3.9



Qw2 利便性

Score: 2.7



Qw3 安全・安心

Score: 4.3



運用管理

Qw4 運営管理

Score: 4.8



プログラム

Qw5 プログラム

Score: 5.0



参考: 知的生産性の視点に基づいた評価



3 設計上の配慮事項

総合

「環境への配慮したオフィス」「健康性・快適性にすぐれたオフィス」「安全・安心なオフィス」の3つのコンセプトを基にNearby ZEBの実現やABW（アクティビティ・ベースド・ワーキング）の採用そしてBCP（事業継続計画）対策などを計画している。

<p>Qw1 健康性・快適性</p> <p>一人当たりのスペースを十分に確保し、働く場所を自由に選ぶことのできるABWを実践する家具の配置を行っている。また健康に配慮した什器の選定、外内部問わず、緑の感じられる空間となっている。</p>	<p>Qw2 利便性</p> <p>多様な打ち合わせスペースを用意し、それぞれのシーンに合わせた場所の選定を行うことができる。また動線上にラウンジやリフレッシュスペースを設け部署を問わず、コミュニケーションが誘発されることを期待している。</p>	<p>Qw3 安全・安心</p> <p>免震構造を取り入れ、自家発電設備により災害時に備えたエネルギー供給がなされ、各階ミネラルウォーターサーバーを備えることで常に安全な飲料水を確保できる。</p>
<p>Qw4 運営管理</p> <p>防汚性の高い建材を使用し、清掃に配慮した計画にしたことで建物の維持管理を容易なものとしており、執務者が快適に業務を遂行できるよう調査を行い改善する体制を整えている。</p>	<p>Qw5 プログラム</p> <p>社内におけるストレスチェック・産業医によるwebセミナーの受検を促しており、福利厚生としてフィットネスクラブへの費用補助や当社健康保険組合によるウォーキングを促す取組も行われている。</p>	<p>その他</p> <p>0</p>

スコアシート			
配慮項目		環境配慮の概要記入欄	評価点
総合評価			4.3
Qw1 健康性・快適性			3.9
1 空間・内装			4.8
1.1 レイアウトの柔軟性	1.1.1 空間の形状・自由さ		5.0
	1.1.2 荷重のゆとり		4.0
	1.1.3 設備機器の区画別運用の可変性		4.0
1.2 知的生産性を高めるワークスペース			5.0
1.3 内装計画	1.3.1 専有部の内装計画		5.0
	1.3.2 共用部の内装計画		5.0
1.4 作業環境	1.4.1 オフィス什器の機能性・選択性		5.0
	1.4.2 OA機器等の充実度		5.0
1.5 広さ			5.0
1.6 外観デザイン			5.0
2 音環境			4.0
2.1 室内騒音レベル			5.0
2.2 吸音			3.0
3 光・視環境			4.2
3.1 自然光の導入			4.0
3.2 グレア対策	3.2.1 開口部のグレア対策		5.0
	3.2.2 照明器具のグレア対策		5.0
3.3 照度			3.0
4 熱・空気環境			3.6
4.1 空調方式及び個別制御性			4.0
4.2 室温制御	4.2.1 室温		2.0
	4.2.2 外皮性能		5.0
4.3 湿度制御			3.0
4.4 換気性能	4.4.1 換気量		3.0
	4.4.2 自然換気性能		5.0
5 リフレッシュ			4.7
5.1 オフィスからの眺望			5.0
5.2 室内の植栽・自然とのつながり			5.0
5.3 室外(敷地内)の植栽・自然とのつながり			5.0
5.4 トイレの充足性・機能性			4.0
5.5 給排水設備の設置自由度			4.0
5.6 リフレッシュスペース			5.0
5.7 食事のための空間			5.0
5.8 分煙対応、禁煙対応			5.0
6 運動			3.0
6.1 運動促進・支援機能			4.0
6.2 階段の位置・アクセス表示			2.0
Qw2 利便性			2.7
1 移動空間・コミュニケーション			4.5
1.1 動線における出会いの場の創出			5.0
1.2 EV利用の快適性			5.0
1.3 バリアフリー法への対応			3.0
1.4 打ち合わせスペース			5.0
2 情報通信			1.0
2.1 高度情報通信インフラ			1.0

Qw3 安全・安心性		4.3
1 災害対応		4.0
1.1 耐震性	1.1.1 躯体の耐震性能	3.0
	1.1.2 免振・制振・制震性能	5.0
	1.1.3 設備の信頼性	3.0
1.2 災害時エネルギー供給		5.0
2 有害物質対策		3.5
2.1 化学汚染物質		4.0
2.2 有害物質を含まない材料の使用		3.0
2.3 有害物質の既存不適格対応	2.3.1 アスベスト、PCB対応	-
	2.3.3 土壌汚染等対応	-
3 水質安全性		5.0
3.1 水質安全性		5.0
4 セキュリティ		5.0
4.1 セキュリティ設備		5.0
Qw4 運営管理		4.8
1 維持管理計画		5.0
1.1 維持管理に配慮した設計		5.0
1.2 維持管理用機能の確保		5.0
1.3 維持保全計画		5.0
1.4 維持管理の状況	1.4.1 定期調査・検査報告書	-
	1.4.2 維持管理レベル	-
1.5 中長期保全計画の有無と実行性		5.0
2 満足度調査		5.0
2.1 満足度調査の定期的実施等		5.0
3 災害時対応		4.6
3.1 BCPの有無		4.0
3.2 消防訓練の実施		5.0
3.3 AEDの設置		5.0
Qw5 プログラム		5.0
1 メンタルヘルス対策、医療サービス		5.0
2 社内情報共有インフラ		5.0
3 健康増進プログラム		5.0